

# 令和6年度草津栗東行政事務組合議会視察研修報告書

## 1. 視察研修の目的

市民ニーズに沿った施設配置や運営等に配慮されている先進施設の内容を視察し、新火葬場の整備・運営に向けた参考とするため。

## 2. 視察研修先

河内長野市営斎場金剛霊殿（大阪府河内長野市天野町1304-3）

## 3. 日時

令和6年4月11日（木） 10:00～11:30

## 4. 視察研修出席議員名

議長 里内 英幸

副議長 小野 元嗣

議員 井上 薫、西村 隆行、青木 千尋、田村 隆光

## 執行部同行者

草津栗東行政事務組合事務局

鵜飼 保彦、吉水 信宏、鈴木 孝宏、片岡 和也、森島 朋大

## 5. 行程

栗東市役所（8:00発） → 金剛霊殿施設見学および質疑等（10:00～11:30） → 栗東市役所（14:00着）

## 1. 河内長野市の概要

### (1) 人口等

男 性：46,543人

女 性：52,401人

総 数：98,944人 / 世帯数：47,493世帯

### (2) 概要

昭和29年4月1日、長野町、三日市村、高向村、天見村、加賀田村、川上村が合併して、大阪府内18番目の市制を施行。人口31,052人の河内長野市が誕生。大阪府の南東端に位置し、東は金剛山地で奈良県、南は和泉山脈で和歌山県と接し、北を頂点とした三角形の市域を形づくっている。

大阪府内で3番目に広い面積の7割は森林で、石川や石見川など河川沿いに平野が開け、北に向かって河内平野に続いている。市域の大部分は砂岩地帯、肥沃な土壌と内陸性の湿潤温暖な気候があいまって、稲や野菜、果樹の栽培に適している。

位置：東経135度34分 北緯34度27分

面積：109.63km<sup>2</sup>

海拔：最高924.2m 最低76m

## 2. 河内長野市営斎場 金剛霊殿の概要

### (1) 施設の特徴

厳粛さと安らぎを感じることができる落ち着いた雰囲気と、ご家族のプライバシーに配慮し、しめやかに故人と最後のお別れをすることができる施設となっている。お別れ室により、簡易告別式を実施するなど、施設の運営については、多様化する葬儀形式にも対応できる、きめ細かいサービス提供を実施されている。

### (2) 施設概要

供用開始：平成28年10月

敷地面積：20,739.00m<sup>2</sup>

延床面積：2,374.35m<sup>2</sup>

主な施設：エントランスホール、お別れ室4室、待合室4室、待合ロビー、授乳室、子ども室、火葬炉室、事務室、霊安室（2体用）等

駐 車 場：合計48台

（来場者用40台、障がい者等用4台、マイクロバス用4台）

### (3) 火葬炉設備

炉 数：人体炉 6 基（標準炉 4 基、大型炉 2 基）、動物炉 1 基

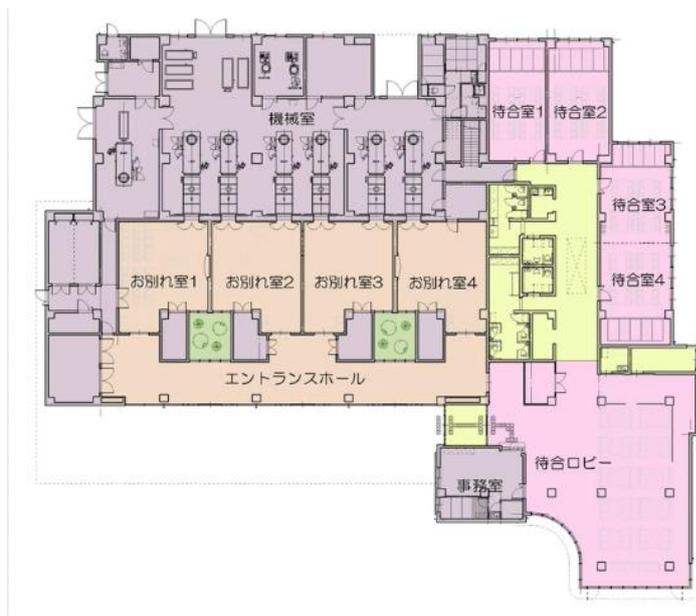
主要設備方式：台車式・2 炉 1 排気系列

火 葬 燃 料：L P ガス

### (4) 運営について

運営主体：指定管理者制度による

そ の 他：簡易告別式の実施、動物火葬（集合）の実施



河内長野市営斎場金剛霊殿 HP より

## 3. 施設見学および説明

### (1) 施設について

- ・市内から斎場までの最大所要時間は30分程度である。
- ・自然公園法の規制がかかる地区になるため、建築物の高さについて配慮する必要があった。
- ・当時は市内の葬祭業者が所有するホール等を使用した葬儀が主流ではあったものの、比較的規模の小さい葬儀等が増加することが予想され、これらのニーズに対応するため、告別収骨室や待合室等の整備を実施した。

- ・山の中腹に立地していることから、外構が野生生物の被害に遭うことがある。敷地周辺を囲む柵など工夫を加えれば良かったと感じている。また、標高が高いことから、落雷による誘導雷により機器が被害を受けることもあり、なんとかできないものかと思慮している。
- ・駐車場については、1会葬当たり最大8台とし、それに同一時間帯の最大稼動炉数4基と葬儀1組として5を乗じて40台とした。現在のところ不足はない。

## (2) 火葬炉設備について

- ・炉数については、年齢別人口等をもとに、1日当たりの平均火葬件数、集中日の火葬件数等を考慮し、将来的な1日当たりの最大火葬件数を8.55件と算定した。また、火葬炉については、1日に2回転を予定していることから理論的な必要炉数を5基とし、予備炉1基の計6炉と設定している。

## (3) 運営について

### ① 動物火葬について

- ・年間利用は約700件で、ほぼ横ばいに推移している。
- ・個別火葬については燃料費のほか、人的コストも大きくなることから、集合火葬を実施している。  
また、現在の斎場の供用開始後に個別火葬を検討したこともあったが、費用の試算を行ったところ、民間の動物霊園等と同水準の費用がかかることが想定され、利用者へのアンケート調査を実施した際にも約8割の方から「集合火葬のみで構わない」との回答を得たことから、個別火葬の実施は見送った経緯がある。
- ・立ち会いや収骨、火葬のタイミングについては、火葬受入れ時に一任いただくことを説明し、納得された上で受入れを行っているため、その点についての意見はほとんどない。
- ・民間事業者は個別火葬の実施や永代供養等の付加価値の面も大きく、公共サービスとのすみわけができていないものと考えている。

### ② 簡易告別式について

- ・令和4年度実績で1,606件の火葬（手術肢体を除く。）があり、告別収骨室の利用件数が56件であるため、告別収骨室を使用して葬儀等を実施した割合は約3.5%となる。また、コロナ禍である令和3年度では約6.5%だった。

- ・市内の葬儀場とのすみ分けもあり、通夜は実施していない。
- ・市内の葬儀場は比較的大規模なホールを有しており、すみ分けが行えているため、現在のところ民間事業者への影響（民業圧迫）があるとの声は聞いていない。

### ③ 市民意見の聴取について

- ・施設内にアンケート用紙を設置しており、利用者に随時記入してもらっている。また、上記の個別火葬検討の際等、臨時的なアンケートを実施することもある。

### ④ インターネット予約システムについて

- ・従前は市役所窓口及び夜間は宿直で予約対応を行っていたが、指定管理者制度を導入するに際し、利便性の向上を目的に来庁不要で24時間対応可能な方法として予約システム導入を決めた。システム使用にはIDが必要となり、原則として葬祭業者のみにIDの発行を行っている。死産児の火葬等で個人が直接火葬予約を行う際には、電話での予約対応を行っている。

## 4. その他質疑応答

### (1) 施設使用料の決定方法

適正な受益者負担の考え方から、市内料金についてはランニングコストの50%とし、市外料金については近隣市を参考に設定している。動物火葬（集合）では、1回の火葬数を平均5体と想定し、上記と同様の考え方をもとに決定している。

### (2) 指定管理者制度を活用した理由と効果があった点、課題

民間事業者が培ってきたノウハウを活用したサービスの向上や円滑な業務遂行と、より効率的な運営による経費削減を目的に、指定管理者制度を導入した。

その結果、独自研修等による接遇の向上や技能の習熟による効率的な運営が可能となっている点等で効果があった。

一方、自主事業等で収益を上げる性質の施設ではないことから、火葬件数が想定以上に増加した場合の主に光熱費の費用負担について考慮していく必要があるという課題もある。

## 5. 所感

令和4年10月、草津市と栗東市が共同で火葬場を建設することを目的とした草津栗東行政事務組合設立以降、PFI導入可能性調査を含む基本計画の策定から始まり、環境影響調査等段階を経て、ようやく事業者選定に至るところとなりました。

今後具体的な実施方針と併せ、要求水準を作成し、特定事業の選定の後、事業者選定に進むことになります。

このような時期を迎えるにあたり、同様の取り組みを経て火葬場事業の運営をされている自治体の現状を知る目的で、今回の視察研修を実施致しました。

視察先の選定にあたっては、我々事務組合事業の参考にするため、稼働後比較的新しい施設であること、施設形態や規模が同様の施設を持つ自治体を選定したところであります。

まずは、この度の視察にあたり、お伺いした河内長野市様ならびに施設の指定管理者の皆様、そして河内長野市議会事務局の皆様には大変丁寧な対応を頂き、心より感謝申し上げます。

視察先の大阪府河内長野市営斎場は、平成28年10月より、指定管理者による管理運営を行っておられます。

今日まで稼働開始後7年が経過したものの、建物は非常に清潔に管理されており、山間地の高台にあることと相まって、採光も十分で、大変明るい施設となっている点が、最初の印象でありました。待合ロビーも明るく、授乳室（子ども室）も併設され、違和感のない構造となっていた点も参考になりました。

当事務組合で基本計画の策定にあたって懸案にも挙がっていた、告別式場の併設等についても「告別収骨室（お別れ室）」として、30名程度までの簡易な告別式を可能とした部屋も設計されており、隣に霊安室も備えられ、利用者のニーズにも対応できる形となっています。また、同時に懸案でもあった愛玩動物などの火葬についても、集合火葬を前提とし、収骨を行わない体制であること等、その利用の現状や理由についても御教授いただき、今後の参考となる内容でもありました。さらに今回は、利用者が目にすることの無い、階上に設置されている送風タービンや消煙施設、除塵施設を有する機械室も見せていただき、環境配慮の重要性とその対応を目にすることが出来たことも、大変参考になったところであります。

新型コロナウイルス感染症の拡大時期以降、市民の葬儀・葬祭に対する考え方が変化してきている中で、いかに「遺族や会葬者の心情に配慮できるか」を主眼に、周辺自治会等の御理解を得ながら、両市の市民の皆様が安心して利用いただける、協調と調和のとれた施設を目指す必要性を感じたところであります。

(河内長野市営斎場 金剛霊殿)

